

| | | | | | | |
|---|--|-------------|----------|---|------|----|
| 科目名 | 教育実習（実習指導） | | 担当教員 | 由田 新・石井 章仁・小久保圭一郎 池谷 潤子・伊藤 恵里子・久保 瑤子 | | |
| | | | 担当形態 | 複数 | | |
| テキスト | 「教育・保育課程論」萌文書林 「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館 「保育用語辞典」ミネルヴァ書房 | 単位数 授業形態 | 1 単位 | 演習 | 開講時期 | 通年 |
| <p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園において、体験・実習を行うための準備をし、実習後に実習体験のまとめを行うことを通して、自身の体験を省察し反省的な実践を行う素地ができる。 ・実習の後半で行う、部分実習（計画の立案から実践、評価までを行う体験）を行うための準備を整え、仲間と協同して実践することができる。 ・入学直後から始まる子どもとかかわる体験・実習を通して、幼稚園における保育の実態や子どもの成長過程を知り、体験をまとめ、グループの実習を共に行う仲間とともに、振り返りを行うことで自身の体験を省察し、発表することができる。 <p><子ども理解></p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園においてはじめて子どもとかかわり、子どもとかかわる喜びを感じ、子どもの姿からその特徴などを知る。また、1年を通じてどのような生活をし、どう成長を遂げるのかを知る。 <p><職務の理解></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者が子どもとかかわる姿を働くの援助と、その基となる保育観や環境構成・意図などを理解する。 <p><園の理解></p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園における生活や遊び、保育者の援助など幼稚園教育の実際を知る。また、保護者支援など、様々な支援の実際に触れる。 <p><保育の過程の理解></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活や遊び、活動を通して、保育の内容に関心を持ちその意味を考える。また、そのような体験を保障するために保育者が願いと教育的な意図をもって構成する環境について知る。 ・保育の過程を理解し、仲間とともに簡単な部分的な計画の立案、実践、自己評価、改善を行う。 <p><自己課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習を通して自己の良さや課題、価値観などに気づく。 <p>■授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めて訪れる幼稚園において幼稚園での生活に触れ、子どもとかかわることを通して保育に関する興味関心を醸成する。 ・自身の実践や保育者の実践を垣間見ることから、保育者になっていく自分のあり様を探求する。 ・事前準備や実践の振り返り、部分実習の準備等は、保育内容演習とあわせて、実習に際して必要な事項の学修を行う。 <p><事前指導></p> <p>スムーズに実習に臨めるように、実習前には、保育体験やオリエンテーションを行い、実習に際して必要な事項等を知る。実習に際して不安感を抱かないよう、複数で同じ実習園に通うと共に、実習中には教員が側でアドバイスなどができるように実習に帯同する。授業内だけでなく、「保育内容演習」と連動しながら教員や仲間と支え合う関係性を構築する。</p> <p><事後指導></p> <p>実習後の振り返りでは、自身が実習を通して感じたこと、目の前の子どものように関わり考えたかなど、実習記録を基に体験を基に仲間同士で振り返り、実習のまとめを行います。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション（事前訪問） 第2回 実習の振り返り・次の実習の準備① 第3回 実習の振り返り・次の実習の準備② 第4回 実習の振り返り・次の実習の準備③ 第5回 実習の振り返り・次の実習の準備④/部分・責任実習に向けて 第6回 実習の振り返り・次の実習の準備⑤ 第7回 実習の振り返り⑥/実習のまとめ（1年間の実習を終えて）</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業では、実習記録を作成するため、普段から文章等を読み、書き、考察する習慣を作る事が求められます ・授業では、自身の考えを他者に表明し、他者の考えや思いに共感したり意見交換をするため、普段から「なぜ、どうして」と疑問を持ったり、他者の話を聴き、気持ちに気づいたりすることが求められます。 ・実習では、服装、髪の色や髪形、言葉遣い、立ち居振る舞い等について保育現場にふさわしい最低限のルールがあります。また、掃除や保育終了後の準備等の場面で、自身の普段の振る舞いや経験などが表れることがあります。したがって、日常生活の見直しや立ち居振る舞いを見つめ直すことが求められます。 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習記録の作成 — 40% ・実習のまとめのレポート — 50% ・実習成果の発表 — 10% | | | | | | |
| 参考文献 | 「幼稚園教育要領」文部科学省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府 | 特記事項 | 特になし。 | | | |
| 卒業・免許状・資格との関連 | 幼稚園教諭免許状必修 | 幼保 | 教職に関する科目 | | | |